

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年8月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0770402121		
法人名	有限会社 優信会		
事業所名	グループホーム 泉ヶ丘		
所在地	〒970-8171 福島県いわき市泉ヶ丘2丁目45番地の7 (電話) 0246-75-1665		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年7月6日	評価確定日	平成19年9月3日

【情報提供票より】 (19年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 1月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5人, 非常勤 7人, 常勤換算 9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	9,000円(4月~10月) 10,500円(11月~3月)	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	1 名	要介護2		0 名		
要介護3	1 名	要介護4		5 名		
要介護5	2 名	要支援2		0 名		
年齢	平均	82 歳	最低	75 歳	最高	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	賀沢内科胃腸科医院、泉保養院、たまつゆ歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街にある鉄骨1ユニットのホームである。玄関には坪庭やつくばいがあり、利用者と一緒に活かした季節の花も飾られている。約50畳ある共用空間の中で利用者は自分に合った居場所を見つけ、一日のほとんどをそこで過ごしている。和室にはお茶の道具が準備されており、茶道経験のある利用者がお茶を点てることを楽しみとしている。法人が運営している保育所や学童保育の子ども達が週に何度か訪れ、利用者はそれを楽しみにしている。ホームのバスを利用し週に2~3回外出を実施している。天気の良い日はお弁当を作り外出することになっており、利用者も楽しみに待っている。認知度が悪化した利用者を自家用車の助手席に乗せて、西洋風のレストランへ食事に行くこともある。日中は職員が4名配置され、余裕のある体制となっている。そのため、職員の家族の急病時等に、職員は休暇がとれる体制となっており、安心して働ける環境になっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果の要改善点が介護計画や利用者の生活歴に関する部分であったため、センター方式を取り入れながら改善に向けた具体的な取り組みをしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者や管理者が評価の意義や目的を職員に分かりやすく伝え、全職員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議では、今年の1月に始めた認知症対応型通所介護サービスの提供状況や職員、管理者の研修会参加状況等を報告している。運営推進会議で出された意見(デイサービス利用者の休憩スペースが狭いのではないかなど)については、すぐに運営者を含めて検討している。今後は、できるだけ皆が参加できるように、地域包括支援センター、利用者家族、区長等の日程も検討しながら、2ヶ月に1回の開催となればさらに良いと思われる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、家族宛てに利用者ごとの生活の様子や金銭管理状況を報告している。アンケートを利用して家族の意見や要望を確認している。出された家族の意見等は職員会議等で情報を共有し、運営へ反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会へ入会し、地域行事(お祭り、花火大会、清掃等)に積極的に参加しているため、災害時地域からの協力体制も確保されている。近くの保育所の園児や児童が交流に訪れ、利用者の楽しみとなっている。また、運営者は地域内のヘルパーの実習や中学生の社会科見学等の依頼があれば全て受け入れている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来からの理念としてはできているが、地域密着型サービスとしての役割を加えた理念に作り変える必要があると思われる。	○	地域密着型サービスの役割を確認し、地域との関わりを含めた理念として再構築する事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念を職員間で共有し、サービス提供の場において具体化しケアに反映されている。また、毎月のミーティングでも再確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、地域のお祭りや一斉清掃等に参加している。近隣の園児や小学生が頻繁に訪れ、地域の中学生の社会科見学やヘルパーの実習等も受け入れるなど、地域との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を共有しながら、前回の評価結果を全職員に伝え、改善に向けて具体的な取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部者からの客観的意見を取り込む姿勢がみられた。委員として依頼している他のメンバーの日程調整をし、2ヶ月に1度開催されれば、さらに良いと思われる。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、文書等で個々の生活ぶりや金銭管理について報告している。必要に応じて電話や面会時にも報告している。今後は、毎月送付する文書の中に職員の異動も入れれば、さらに良いと思われる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には主にアンケートにより、意見、要望を出してもらっている。職員ミーティングでそれらの情報を共有し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代には十分配慮しているが、やむを得ない場合は利用者の動揺が最小限に抑えられるよう、運営者が日頃から余裕ある職員数(日中4名)を配置している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は回覧により研修の機会を知らせ、管理者や職員が積極的に参加できるようサポートしている。遠方の研修会参加へは、運営者側で責任を持ち送迎している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、相互研修での事例検討を通して事業所外の意見や経験を活かす取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から作り方を教えてもらいながら、干し柿、芋がら、切り干し大根等を一緒に作っている。年長者である利用者から多くのことを教えてもらえるよう、工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、毎日のかかわりの中で利用者の思いや意向の把握に努めている。言葉、表情、態度などで真意を推し量っている。意思疎通が困難な場合には、家族等から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向を日頃から確認し、介護計画に反映させるようにしている。さらに、職員の気づきを取り入れられるよう、毎月全職員から意見等を出してもらい、全利用者の介護計画を検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員の気づきや意見を集めたり、家族や利用者の要望を取り入れたりして、利用者それぞれの介護計画に対して見直しを行い、利用者の現状に即した介護計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医等により、利用者が適切な医療を受診できるよう、支援している。家族の通院介助が困難な場合、職員が代行している。今後は特に状態の変化が無い場合も、家族への報告事項の中に毎月の通院介助報告を追加してはどうか。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの看取りに関する指針を作成し、アンケート等により家族や本人の意思を聞き取っているが、重度化に伴う意思確認書の作成には至っていない。	○	医療連携体制の整備がなされていることから、利用者又は家族等へ説明し同意を取る必要があると思われる。重度化に伴う家族の意思確認書等により、意向を確認しながら、職員間で対応方針の共有をすることが大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを尊重し、プライバシーには十分配慮した言葉かけや対応をしている。さらに、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日勤帯は職員を4名配置している。認知症が進んだ利用者とは1対1で対応し、買い物等を支援している。利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、食事、後片づけ等、利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にしている。さらに、自助具を活用しながら、少しでも自立して食べられるよう工夫し見守っている。目で楽しみながら食事できるよう松花堂弁当に詰め、工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めているのではなく、利用者の意向を確認しながら、入浴支援を行っている。また、利用者の羞恥心や抵抗感にも配慮しながら、仲の良い人同士と一緒に入浴してもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	職員は、利用者の得意なことを把握している。お花を生けたり、植物のお世話をしたり、また、行事の際の歌を唄う係やモップかけ係が決まっており、役割作りがされている。利用者一人ひとりの状態に合った支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	1ヶ月に1~2回、ホームのバスを利用して遠出している。バスに酔う人には、個別に対応し外出している。さらに、週に1~2回は、一人ひとりの状態に合わせて数名ずつでお茶飲みや外食等に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	地域内に不審者が出没し、玄関を施錠するよう、取り決めされている。しかし、来訪者も多く玄関の鍵が開いていることも多い。外出してしまう利用者へは、さりげなく声を掛けたり、見守りしたりと安全に配慮しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、避難訓練を実施している。町会に加入し隣組の協力体制も確保されている。さらに、災害に備えた備蓄も準備されている。今後は、夜間を想定した訓練がされれば、さらに良いと思われる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームの栄養士がカロリーを計算し、職員は情報を共有している。利用者ごとに食事量や水分量を常に意識しながら関わっている。嚥下障害のある利用者はないが、利用者の好みに応じておかゆ等を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階の天井まで吹き抜けになっている共用空間には、天井まで届きそうな七夕飾りが飾られており、天窓の開閉で空調設備を使用しなくても過ごしやすい室温となっている。さらに、トイレの臭い等も消臭剤を使用するのではなく、徹底した掃除をすることにより居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、お茶の道具やテレビ、タンス、ベッド等、できるだけ利用者の馴染みの物を持ち込んで、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 泉ヶ丘

記入担当者名 早川 ゆかり

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。